

神谷知子会員 著作目録

List of scientific publications of Professor Tomoko KAMIYA



神谷知子先生（左から2人目，2007年8月25日，三重県海山町銚子川にて，日本陸水学会東海支部会2007年サマースクール，中田良政氏撮影）。

略 歴

1935年(昭和10年)12月7日 東京都生まれ
1955年(昭和30年)4月 東京都立大学理学部 入学
1959年(昭和34年)3月 東京都立大学理学部化学科 卒業
1959年(昭和34年)4月 資源科学研究所 助手
1963年(昭和38年)3月 資源科学研究所 退職
1968年(昭和43年)5月 名古屋大学理学部研究生 入学
1974年(昭和49年)3月 名古屋大学理学部研究生 退学
1978年(昭和53年)10月 暁学園短期大学 非常勤講師
1982年(昭和57年)4月 暁学園短期大学 助教授
1989年(平成元年)9月 暁学園短期大学 教授
1994年(平成6年)4月 四日市大学短期大学部 教授
2001年(平成13年)3月 四日市大学短期大学部 定年退職

著作目録

- 1) 神谷知子 (1961) : 化学的酸素消費量 (COD) に関する研究. 水質汚濁研究 (資源科学研究所), 1.
- 2) 半谷高久・小倉紀雄・神谷知子 (1962) : 紫外外部吸収法による水質汚濁の判定. 水質汚濁研究 (資源科学研究所), 2.
- 3) Saijo, Y. and T. Kamiya (1972) : Occurrence of Chlorophyllide in the Sea. *Biological Oceanography of the Northern North Pacific Ocean*.
- 4) 坂本充・神谷知子 (1973) : 植物プランクトンの生産を支

配する錯体形成有機物の動き. 陸水富栄養化の基礎的研究 2 : 71-74.

- 5) 神谷知子・坂本充 (1974) : 諏訪湖における植物プランクトンの生産支配因子としての鉄の依存状態. 陸水富栄養化の基礎的研究 3 : 27-29.
- 6) 坂本充・神谷知子・八木明彦 (1975) : 湖沼富栄養化促進因子としての流入栄養塩の閾値に関する研究. 陸水富栄養化とその対策 1 : 37-39
- 7) 神谷知子・坂本充 (1976) : 諏訪湖における鉄との錯体形成有機物の存在と富栄養化促進因子としてのその意義. 陸水富栄養化とその対策 2 : 18-20.
- 8) 神谷知子・坂本充 (1977) 諏訪湖底沼および木崎湖における鉄との錯体形成有機物の存在とその意義. 陸水富栄養化とその対策 3 : 22-24.
- 9) Sakamoto, M. and T. Kamiya (1981) : Distribution of particulate and dissolved iron and their availability to phytoplankton in some Japanese lakes. *Verhandlungen der Internationale Vereinigung für Theoretische und Angewandte Limnologie*, 21: 256-262.
- 10) 神谷知子 (1987) : 飲料水中への鉄の溶出機構に関する研究. 文部省科学研究費 (一般研究 C) 研究成果報告書.
- 11) 神谷知子 (1987) : 飲料水中への鉄の溶出機構に関する研究. 暁学園短期大学紀要, 21号 : 25-30.
- 12) 神谷知子 (1988) : 山村ダム湖における鉄及びリンの保持能力. 暁学園短期大学紀要, 22号 : 1-4.
- 13) 神谷知子 (1992) : 卒業論文のテーマとしての合成洗剤. 合成洗剤研究会誌, 16巻.
- 14) 神谷知子 (1995) : 環境教育としての酸性雨測定. 四日市大学短期大学部紀要, 29号 : 213-235.
- 15) 神谷知子 (1997) : Fe 保持能を有する有機物の分布. 伊勢湾地域の総合的利用と保全に関する研究・研究報告書(中間報告, 三重県高等教育機関連絡会議), p. 37.
- 16) 神谷知子 (1998) : 伊勢湾汚染度評価. 伊勢湾地域の総合的利用と保全, 研究報告書 (中間報告 2, 三重県高等教育機関連絡会議), p. 82-87.
- 17) 神谷知子 (1999) : これまで公表されている伊勢湾環境関連の文献について. 伊勢湾地域の総合的利用と保全, 研究報告書 (三重県高等教育機関連絡会議), p. 81-82.
- 18) 神谷知子 (1999) : 伊勢湾底泥における鉄の保持能力. 四日市大学短期大学部紀要, 33号 : 13-20.

